

# 企画県土警察常任委員会資料

(平成24年5月21日)

- 1 予定価格の事後公表の試行結果について 【県土総務課】……1ページ
- 2 測量等業務の総合評価方式の見直しについて 【県土総務課】……2ページ
- 3 測量等業務の競争入札で用いる評価点数の誤りについて 【県土総務課】……3ページ
- 4 平成24年度湖山池会議(第1回)の概要について 【河川課】……5ページ
- 5 湖山池におけるフナ<sup>へいし</sup>の大量斃死について 【河川課】……6ページ

県土整備部

# 予定価格の事後公表の試行結果について

平成24年5月21日  
県土総務課

## 1 建設工事における予定価格公表の状況

平成13年から予定価格の事前公表に変更した。

なお、平成19年の一般競争入札の導入以降、応札額が最低制限価格付近に集中している。

## 2 試行の概要

### (1) 試行の目的

建設業者が自ら積算した価格で応札できる環境を整えるための検討を行うことを目的として試行を行う。

### (2) 試行件数及び対象範囲

年度	試行件数	対象範囲
平成21年度	29件	土木一般A級、アスファルトA級
平成22年度	45件	土木一般A～D級、アスファルトA・B級、とび等一般A～C級
平成23年度	54件	土木一般A級：全発注件数の1/3 土木一般B級・アスファルトA級・とび等一般A級：全発注件数の20% 土木一般C・D級・アスファルトB級・とび等一般B・C級：全発注件数の5%

### (3) 平成23年度の試行結果

項目	状況
平均落札率	一部の工種を除き、事後公表の方が若干上昇
平均応札者数	多くの工種において、事後公表の方が減少
平均質問件数	多くの工種において、事後公表の方が若干増加
予定価格を探ろうとする不当な働きかけ	特になし

## 3 今後の対応

以下のとおり試行件数を拡大する。

土木一般A級：原則全ての発注

土木一般B級・アスファルトA級・とび等一般A級：全発注件数の1/3

土木一般C・D級・アスファルトB級・とび等一般B・C級：全発注件数の5%

### 【参考】

○平成23年度の試行状況（実施件数：54件）

工種	土木一般A級			土木一般B級			土木一般C級		
	事前 ①	事後 ②(16件)	差 ②-①	事前 ①	事後 ②(15件)	差 ②-①	事前 ②	事後 ②(7件)	差 ②-①
平均落札率	91.5%	91.7%	0.2%	91.5%	92.5%	1.0%	91.1%	91.7%	0.6%
平均応札者数	10.1者	8.5者	-1.6者	12.3者	7.9者	-4.4者	7.1者	9.0者	1.9者
平均質問件数	0.5件	0.9件	0.4件	0.5件	0.4件	-0.1件	0.1件	0.4件	0.3件
不当な働きかけの件数	-	0件	-	-	0件	-	-	0件	-

工種	土木一般D級			アスファルトA級			アスファルトB級		
	事前 ①	事後 ②(6件)	差 ②-①	事前 ①	事後 ②(9件)	差 ②-①	事前 ①	事後 ②(1件)	差 ②-①
平均落札率	89.9%	90.8%	0.9%	90.1%	92.9%	2.8%	94.0%	98.8%	4.8%
平均応札者数	16.8者	13.3者	-3.5者	6.2者	4.8者	-1.4者	6者	5者	-1.0者
平均質問件数	0.2件	0件	-0.2件	0件	0.1件	0.1件	0件	0件	0件
不当な働きかけの件数	-	0件	-	-	0件	-	-	0件	-

	平均値		
	事前 ①	事後 ②(54件)	差 ②-①
平均落札率	91.1%	92.1%	1.0%
平均応札者数	10.3者	8.3者	-2.0者
平均質問件数	0.3件	0.5件	0.2件
不当な働きかけの件数	-	0件	-

# 測量等業務の総合評価方式の見直しについて

平成24年5月21日  
県土総務課

建設工事に係る設計業務の入札において、総合評価方式を試行していますが、その評価方法を見直し、併せて試行件数の拡大を行うこととしました。

## 1 目的

価格と品質が総合的に優れた調達を行うことを目的として、平成20年度より総合評価方式を試行しているが、今回、測量設計業協会からの意見も踏まえ、評価項目、配点について一部見直しを行うものである。

## 2 測量設計業協会からの意見

- ・技術力のある企業が受注できる入札制度となるよう、現行の評価項目の技術点に、配置技術者の評価を加え、総合評価入札を拡大することを提案する。

## 3 総合評価方式の見直し

総合評価競争入札の本格実施に向けて、技術力の評価比重を高めるとともに、試行件数の拡大を行う。

### (1) 評価項目、配点の一部見直し

新たに配置技術者の資格や業務実績を評価することとし、技術者数等の配点を減らす。

評価項目	入札価格点数	技術点数								合計
		技術者数	配置技術者	会社業務成績	ISO	男女共同参加	資格停止	手持業務件数	計	
点数(新)	40	23	10	25	1	1	0～3	-3×件数	60	100
点数(旧)	40	31.2 (29.2)	—	30 (28.0)	1.8 (1.7)	1.2 (1.1)	0～3	-3×件数	64.2 (60)	104.2 (100)

注 ( ) は、技術点数を60点に換算した場合の点数。

### (2) 試行件数の拡大

予定価格500万円以上の比較的業務の難易度が高い県内向け土木関係建設コンサルタント業務の2/3程度に試行件数を拡大する。(平成23年度は1/3程度)

# 測量等業務の競争入札で用いる評価点数の誤りについて

平成24年5月21日  
県土総務課

建設工事に係る測量、設計等の競争入札では、技術者数などの評価項目を総合的に評価して、入札に参加する業者を指名し、あるいは落札者を決定しているが、この評価項目の点数（以下「評価点数」という。）の一部に誤りがあることが5月11日に判明しました。

このことから、全ての評価点数について点検を行ったところ、平成22年度当初から誤りが判明した平成24年5月11日までに、本来入札に参加する者として指名されるべき業者が指名されなかった限定公募型指名競争入札が21件あったことがわかりました。

このため、まだ開札していなかった2件については、調達公告からやり直すこととし（14日）、また、指名されなかった9業者に謝罪し、再発防止策を講じることとしました。

なお、総合評価競争入札の落札決定には、影響がありませんでした。

## 1 誤りの概要と影響

平成22年度当初から平成24年5月11日までに、11業者の評価点数に誤りがあり、21件の限定公募型指名競争入札において、本来入札に参加する者として指名されるべき業者が指名されなかった。

点数に誤りのあった評価項目	点数に誤りのあった業者数			影 響	
	H22	H23	H24	有無	内 容 等
資格停止	2	4	8	あり	21件の入札で、本来入札に参加する者として指名されるべき業者が指名されなかった。（詳細は表1のとおり）
事務所の位置	1	1	1	なし	当該業者が、いずれの年度の公募に対しても応募していない。
技術者数	1	1	1	なし	
男女共同参画	—	—	1	なし	
計	4	6	11	（注）重複分を除いた業者の実数は11	

（表1）年度別の件数と業者数

年 度	H22	H23	H24	計
本来入札に参加する者として指名されるべき業者が指名されなかった入札件数（業者の実数）	1件 （1者）	15件 （7者）	5件 （3者）	21件 （9者）

## 2 原因

誤りのあった評価項目のうち、資格停止については、毎年度更新作業が必要であるにもかかわらず入札関係システム内で自動更新されるとの誤解があり、結果的にH22年度以降更新がなされなかったものであり、その他の誤りのあった項目については、単純な入力ミスであった。いずれの誤りについても入力データのチェックが不十分であったため、これらの誤りが修正されなかった。

## 3 対応

- 影響のあった業務のうち、まだ入札が行われていなかった平成24年度の業務2件については、入札を取り止め、調達公告からやり直すこととした（14日）。
- 本来、入札に参加する者として指名されるべき業者でありながら指名されなかった9業者に対して、誤りの内容を説明して、謝罪した。

## 4 再発防止策

関係職員の役割分担を見直してダブルチェックを行うこととするなど抜本的なチェック体制の見直し、強化を行う。

【参考：入札方式と評価項目等】

\* 総合評価競争入札：価格と技術力等を点数化して落札者を決定する入札方式

\* 限定公募型指名競争入札：公募した入札参加者を技術力等の評価項目によって 10 者以内に絞り込み、指名された業者だけで入札（価格競争）を行う入札方式

評価 入札項目 方式	価格	事務所 位置	指名 回数	手持ち業務 件数（受注額）	技術 者数	ISO 認証	男女共 同参画	業務成績評 定点	資格停止
指名競争 入札	— (注)	○	○	○	○	○	○	○	○
総合評価 競争入札	○	—	—	○	○	○	○	○	○

(注) 10 社以内に絞り込みを行い（指名）、その後に価格競争を行う

# 平成 24 年度湖山池会議（第 1 回）の概要について

平成 24 年 5 月 21 日  
水・大気環境課  
農政課  
河川課

- ・湖山池の将来ビジョン策定及びそれに伴う高塩分化の取組みがスタートして初めての会議となる。
- ・湖山池会議の役割体制の確認や高塩分化による汽水域再生への取組みについて各チームから現在の取組み状況や今後の計画等の報告があった。

## 1 開催日時等

日時：平成 24 年 4 月 26 日（木） 10:30～11:40

場所：鳥取市役所本庁舎 6 階 第 1 会議室

出席者：（鳥取県）統轄監 ほか関係部長 （鳥取市）副市長 ほか関係部長

## 2 議事概要

### ○役割体制等の確認

県・市の関係各機関からなる下表のチーム体制を編成し、協働・連携で取り組んでいくことを確認。  
※各チームは、下記のチーム長部局のほか、いくつかの関係課から構成される。

対策チーム名 チーム長部局	所掌・役割
①環境モニタリング 県：東部生活局／水・大気課 市：生活環境課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高塩分化に伴う塩分、水質、底質、生態系の全体モニタリングと結果の評価</li> <li>・環境モニタリング委員会の設置・運営</li> <li>・環境変動の随時チェック及び整理・公表など</li> </ul>
②水質浄化対策 県：東部県土局／河川課 市：都市環境課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖内対策（浚渫、覆砂、なぎさ護岸など）の検討</li> <li>・陸域対策（流入河川管理、市街地面源）の検討</li> <li>・今後の水門操作に関する対応検討</li> <li>・環境に優しい農業の推進、森林の保全等に関する対応検討</li> </ul>
③農業対策 県：東部農林局／農政課 市：農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者とのパイプ役</li> <li>・高塩分化に伴う農業関係の対策・施策全般</li> </ul>
④漁業振興 県：栽培魚セ／水産課 市：林務水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者とのパイプ役</li> <li>・漁業振興策の企画・立案・実施</li> </ul>
⑤市民連携・利活用検討 県：東部県民局／未来戦略課 市：協働推進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民とのパイプ役</li> <li>・市民の意見・要望・苦情等の集約やそれに伴う施策への発展検討</li> <li>・市民への情報発信に関する事項の全般</li> <li>・観光事業、ジオパーク関連の施策展開</li> </ul>

### ○各対策チームの主な取組内容についての報告

塩分濃度推移の結果、環境モニタリング計画、浚渫・覆砂等の湖内対策計画、農業対策の取組状況、漁業振興への取組計画、市民との意見交換会の開催計画など

### ○今後の湖山池会議の予定等

当該会議の開催は、各チームの動きによって、必要に応じて開催していくことを確認。当面は水質管理計画策定について 6 月頃に開催予定。なお、定例的には水質結果等が整理される 5 月と次年度の取組みを検討するために予算編成前の 9 月頃の定例開催を計画していく。

## 3 参考（これまでの経過）

平成 24 年 1 月 31 日	湖山池会議（県知事、市長出席の拡大版）にて「湖山池将来ビジョン」を策定。 （高塩分化による汽水域再生への方向性を確認）
3 月 12 日	水門開放による高塩分化への取組スタート。（当面は、夏季のアオコ、ヒシの抑制を図るために塩分が 3,000mg/L に達するまで、水門全開とする予定である。）

# 湖山池におけるフナの大量斃死について

平成24年5月21日  
水産課  
水・大気環境課  
河川課

- ・湖山池においてフナの大量斃死の事例が発生し、鳥取県と鳥取市で協力・連携して死魚の回収作業を実施した。
- ・フナ以外の魚種の斃死がないことから、今回の大量斃死の原因はフナ特有の疾病の可能性が高いと考えられるが、その詳細究明はできなかった。

## 1 経過など

日付	内容
4/28 まで	・数日前から少量のフナの斃死を確認し、その後池周辺全域で湖岸に打ち上げられた斃死魚が目立つようになる。(湖山池漁協情報) ・市民から鳥取市に斃死魚に係る情報提供あり。県と市とで現地確認を実施。(28日)
4/29	一昨年に運動性エロモナス症による大量斃死があったことから、同症の原因菌の遺伝子検査に着手。(鳥取県栽培漁業センター)
5/1	湖山池漁協及び鳥取市、鳥取県の職員(約40名)により斃死魚回収。 回収場所:湖山池周辺湖岸及び湖内 回収状況:斃死魚回収量(約710kg)鳥取市で焼却処分
5/8	東部県土整備局にて斃死魚回収 回収場所:湖山池周辺湖岸 回収状況:斃死魚回収量(約60kg)鳥取市で焼却処分

## 2 県栽培漁業センターによる検査結果

- 検査結果 : 運動性エロモナス症は陰性(ただし検体の腐敗が検査結果に影響している可能性あり)
- 検査方法 : PCR検査(鰓・腎臓)
- 検体 : ギンブナ 体長約30cm
- 外観等 : 外観に目立った出血や発赤等はない。内臓は腐敗、腹水貯留、卵巣が発達。

## 3 フナの斃死原因

- フナ以外の魚種の斃死が無いことから、当該事例原因はフナ特有の疾病の可能性が高いと考えられるが、詳細究明はできなかった。
- 湖山池の高塩分化に伴う環境モニタリングを徹底しているところであり、それらの結果から考察すると溶存酸素の欠乏による酸欠や塩分濃度の上昇が原因とは考えられない。
- フナのみ斃死の状況を勘案すると有害物質の流出による原因も考えられない。

## 4 今後の対応

当面の間、関係機関により監視を継続するとともに、今後、同様の斃死が再び発生すれば疾病検査に迅速に着手し、原因究明を行うこととしている。

### (参考)

- 湖山池では平成22年の4月～5月に今回同様のフナの大量斃死が発生。
  - ・死魚からは運動性エロモナス症の病原菌を検出。フナ疾病による大量斃死と推定。
  - ・斃死魚回収量:1,490kg